

2021 年 1 月 25 日
システムワークフロー検討作業部会

2020 年度活動報告および 2021 年度活動計画

1. 活動概要

第 27 回これからの学術情報システム構築検討委員会において承認された「活動計画」を基に、JUSTICE との連携や国内外の事例調査等に当たったほか、以下に示す「班」を中心に活動を行った

(ア) 課題解決及び検証を目的とするもの

- ① 中央システム整備（電子リソース対応）班
- ② 中央システム整備（メタデータ流通の高度化検討）班
- ③ 中央システム整備（統合的発見環境）班
- ④ 図書館システム整備モデル A 班※
- ⑤ 図書館システム整備モデル B 班※

※ A 班は部会員，B 班は公募に応じた JUSTICE 会員館のメンバーによる構成。

(イ) 運用・管理を目的とするもの

- ① ERDB 運用作業班
- ② CAT2020 運用移行支援作業班（※本年度活動終了）

2. 活動目標と活動詳細（「課題解決及び検証を目的とする」班）

(ア) 2022 年度に向けての目標

次の①～⑥を実現する：

- ① 中央システムと図書館システム間での、電子リソースのライセンスとタイトルリストを共有する仕組みの運用開始
- ② 中央システムと図書館システムで利用する書誌レコード等について、出版社やプラットフォームが作成する出版流通データの活用
- ③ 中央システムにおける書誌レコードフォーマットを MARC21 とすること、および目録規則への『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018）の適用
- ④ 大学図書館等のデジタルアーカイブのデータをジャパンサーチに集約する仕組みの運用開始
- ⑤ 海外のナレッジベースや VIAF 等と持続可能かつ適切なデータ共有の開始
- ⑥ 「紙」と「電子」を基盤とする統合的発見環境と次世代 ILL とも言うべきリソース共有の仕組みの提供

(イ) 2020 年度の目標と実績

① [目標]

Alma や国内ベンダーの ILS など多様な図書館システムにおいて、電子リソースのライセンス及びタイトルリストを共有するための運用手順を検証するほか、JUSTICE から出版社に対して、提案書に盛り込むよう指示される「ライセンスメタデータ項目」について、中央システム及び図書館システムでの利用を前提とした提案を行うこと

[実績]

運用手順の検証ならびに「ライセンスメタデータ項目」の提案を行った

② [目標]

流通出版データを集約する OpenBD 等との間で、国内電子ブックのメタデータ収集に関する意見交換を行うこと

[実績]

OpenBD (カーリル)と国内電子書籍メタデータ収集に関する情報交換を行った
【2020 年 12 月 14 日 (月)】

③ [目標]

NCR2018 を適用する際の課題と意義について検討するほか、2021 年 1 月に NCR2018 が適用された JPMARC と CATP の間のマッピングを作成すること

[実績]

課題と意義についての検討を行い、「メタデータ収集・作成方針案」へ盛り込めるように整理を行ったほか、JPMARC と CATP の間のマッピングを作成した
また著作の単位について NDL との間で書誌調整連絡会議の場で意見交換を行う予定
【2021 年 3 月 3 日 (水)】

④ [目標]

ジャパンサーチの「共通メタデータフォーマット」の評価ならびに課題の洗い出し、連携の手法や意義について検討すること、および JST-NDL-NII 三機関連携の検討
課題 2「デジタルアーカイブのメタデータ流通検討」で意見交換を行うこと

[実績]

「共通メタデータフォーマット」の評価及び課題の洗い出し、連携の手法や意義についての検討を行い、「メタデータ収集・作成方針案」へ盛り込めるように整理を行った

⑤ [目標]

海外ナレッジベースへの電子リソースのタイトルリスト登録を踏まえた課題を検討すること

[実績]

検討の結果、出版社から提供されるタイトルリストに不備が多いことから、各機関における正確なタイトルリストを作成するための手順書を作成した

⑥ [目標]

統合的発見環境に関する国内類似システムおよび次世代 ILL の調査を行うこと

[実績]

国内類似システムと次世代 ILL について、幅広く情報を収集し、課題を「統合的発見環境班図書館間のリソース共有のための ILL 課題整理」と「統合的発見環境班 ILL 料金決済方法のバリエーション」においてまとめた

(ウ) 2021 年度の目標

「2022 年度に向けての目標」の項番に対応するものとして、以下の①～⑥に取り組む：

- ① JUSTICE と調整し日本版 GOKb (Global Open Knowledgebase) の開設を行い、テスト運用としての電子ジャーナルのライセンスやタイトルリスト等のダウンロード配布ができること、および API 連携による配布を前提としたゲートウェイ機能の構築を検討すること
- ② OpenBD を介して、電子ブックの書誌レコードが提供されるよう、出版社との間で意見交換を行うこと
- ③ 「NCR2018 適用細則案」を公開すること
- ④ 「国内デジタルアーカイブメタデータ集約案」の作成を行うこと
- ⑤ 日本版 GOKb から海外ナレッジベースへの連携方法を検討するほか、VIAF とのデータ共有を踏まえた「著作」の単位について、国内関係組織と調整のうえ、確定させること

- ⑥ 統合対象の検討と決定，ならびに著作権法を踏まえた，コミュニティ間での共有に関する課題ならびに料金決済に関する課題の検討を行うこと

また③，④に関わるものとして，以下の⑦に取り組む：

- ⑦ 「メタデータ収集・作成方針案」を公開すること

3. 活動詳細（「運用・管理を目的とする」班）

（ア） 2020 年度の活動

- ① ERDB-JP の運用として，Salesforce を用いた ERDB-JP を含めた複数サービスの参加機関統合システムの公開を行った【2020 年 9 月 15 日（火）】
- ② CAT2020 が 2020 年 8 月 3 日に開始したことを受け，班活動として、運用移行支援として各種イベント・講演会等に講師を派遣したほか，CAT2020 の詳細内容の検討を行った

（イ） 2021 年度の活動

- ① ERDB-JP の運用・管理は引き続き継続する
- ② CAT2020 の移行が無事に完了したことにより CAT2020 運用移行支援班の活動は設定しない

4. 作業部会等の開催

（ア） 作業部会

- 第 1 回 システムワークフロー検討作業部会 2020 年 8 月 25 日（火）
- 第 2 回 システムワークフロー検討作業部会 2021 年 1 月 14 日（木）

（イ） 主査・班長連絡会

- 第 1 回 主査・班長連絡会 2020 年 12 月 21 日（月）

（ウ） 班別打ち合わせ（随時）

以上

28

2020 年度中央システム整備班（電子リソース対応）活動報告

1. 2020 年度活動計画

- (1) 中央システムにおけるライセンスデータ管理の細かな運用ルールの調整
 - ① 複数年度契約についてのライセンスデータの作成単位を検討
 - ② 図書館システム整備（モデル B）班からフィードバックされた、ライセンスデータ項目の調整
 - ③ 現行設定されているライセンスデータ項目の典拠である JUSTICE 提案書の「提案要約」が 2021 年度に廃止されることに伴う、ライセンスデータ項目（メタデータ）の調整
 - ④ ライセンスデータ項目を利用者の UI に表示させることについて、JUSTICE 事務局を通じて出版社に許諾申請
- (2) Alma から API でエクスポートすることによる差分データの作成テストを実施
 - ① B 班に対し、作成した差分データについてアンケートを実施予定
- (3) ローカル環境でのグローバルナレッジベースの検証方法の検討

※下線部は微修正をおこなった箇所。

2. 活動概要

以下について取り組んだ。

- (1) 図書館システム整備モデル A との連携 →活動計画(1)②④
- (2) 図書館システム整備モデル B との連携 →活動計画(1)②③、(3)
- (3) 中央システムにおけるライセンスデータ管理の細かな運用ルールの調整 →活動計画(1)①

3. 活動詳細

(1) 図書館システム整備モデル A との連携

(ア) ライセンスデータの登録 →活動計画(1)②

- ・ Network Zone、及び、Institution Zone のライセンスの項目を、(2)(ア)で定めた内容に変更
- ・ Network Zone へ添付ファイルを含む License (A 班契約分) を登録 (対応中)

(イ) ライセンスデータの利用者への公開に向けた出版社との調整 →活動計画(1)④

- ・ ライセンスデータについて、リンクリゾルバや API を用いて利用者へ公開するため、JUSTICE 経由で出版社に許諾をとる (対応中)

(2) 図書館システム整備モデル B との連携

(ア) ライセンスデータの項目調整 (B 班と共同) →活動計画(1)②

- ・ B 班に自機関契約分に対して、2019 年度に Network Zone へ登録したライセンス項目について、運用実態との比較を依頼しその結果を集約 (2019 年度の活動)
- ・ 上記を踏まえ、「DDP の有無」、「サイトの定義」を追加、また、「ILL の可否」「授業用教材への利用可否」の粒度を JUSTICE 提案書に合わせる形で調整

(イ) JUSTICE の「提案要約一覧」の改訂 →活動計画(1)③

- ・ JUSTICE 提案製品ごとに作成される「提案要約」の 2021 年度廃止に伴い、「提案要約一覧」の改訂を検討
- ・ 「提案要約一覧」を(2)(ア)で定めた内容に合わせる形で項目を調整、また、ライセンスデータの登録作業の効率化を図り、「アグリーメントまたは Terms & conditions の改訂有無」を追加

(ウ) ライセンスデータの配布

- ・ B 班に(2)(ア)で登録したライセンスデータを配布

(エ) タイトルリスト設定手順書の作成 →活動計画(3)

- ・ B 班に自機関契約分に対して、2019 年度に中央システム整備 (電子リソース対応) 班により、中央システムに登録されたタイトルリストについて、業務への利用検討を依頼しその結果を集約 (2019 年度の活動)
- ・ 一律にデータ化したタイトルリストでは、正確性に問題があるため、業務への利用が不可であり、パッケージごとの個別対応の必要性を確認
- ・ JUSTICE 提案の一部パッケージについて、正確なタイトルリストを生成するための手順書 (ワークフローのテンプレート) を作成することとし、B 班に対応を依頼

(3) 中央システムにおけるライセンスデータ管理の細かな運用ルールの調整 →活動計画(1)①

複数年度契約におけるライセンスデータ作成単位を検討 (年度末にかけて対応予定)

4. 備考

(1) 「2020 年度活動計画」の「(2) Alma から API でエクスポートすることによる差分データの作成テストを実施」について

先述の通り、2019 年度の B 班の検証によって、一律にデータ化したタイトルリストでは正確性に問題があり、業務への利用が不可であることが分かった。パッケージや版元ごとに特性が異なるため、今年度は、各パッケージに対し個別対応を行い、正確なタイトルリストを生成することに注力し、差分データの作成は見送ることにした。

5. 2021 年度以降の課題

- (1) 利用者向けに公開されたライセンス項目に対する利用者の意見収集及び利用動向の調査
- (2) ライセンスデータに対する API 連携を踏まえた更新・適用ワークフローの確定
- (3) API を通じてライセンスデータを配布する中間システム（ゲートウェイ）の構築方法に関する検討
- (4) タイトルリストに対する API 連携あるいはダウンロード連携を踏まえた更新・適用ワークフローの確定
- (5) API を通じてタイトルリストを配布する中間システム（ゲートウェイ）の構築方法に関する検討

以上

2020 年度中央システム整備（メタデータ流通の高度化検討）班活動報告

1. 活動概要

以下について取り組んだ。

- (1) メタデータ流通の高度化検討（電子ブック）
 - ① メタデータ相互のリンク項目について調査・検討
 - ② CiNii Books との連携状況の把握
 - ③ 国内の電子ブックに適したメタデータ項目の適用等の検討
- (2) メタデータ流通の高度化検討（デジタルアーカイブ）
 - ① メタデータ標準化の方針について具体化
 - ② ジャパンサーチ「共通メタデータフォーマット」の評価実施
 - ③ NII と NDL、JST との間で実施される「デジタルアーカイブのメタデータ流通検討」について、JPCOAR のコンテンツ流通作業部会と連携して対応
- (3) NACSIS-CAT における目録規則の変更
 - ① NDL の適用細則 (<https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/index.html>) を参考にして CAT の細則を作成
- (4) 「NACSIS-CAT 書誌データ作成・提供計画（仮）」をまとめ、適用時期・方法・課題等について整理
 - ① NII と大学のメタデータ作成・提供方針を明確化
 - ② メタデータ作成者の育成・確保などモデル部会のコミュニティ検討に寄与
 - ③ 作成データの国際流通に備えることを念頭において対応
- (5) NDL 等関係機関との調整
 - ① 著作の単位など機関間で統一の方針を持つべき案件を整理して、情報交換を実施

2. 活動状況

- (1) 「書誌データ作成・提供計画（仮）」の検討と策定
 - ① 電子ブック、デジタルアーカイブ、また NACSIS-CAT 書誌データについて、統合的にメタデータ標準化の方針を策定するため、「書誌データ作成・提供計画（仮）」として整理、検討を行った。
- (2) メタデータ流通の高度化検討（電子ブック）
 - ① CiNii Books との連携状況について調査し、電子ジャーナルに比べると ERDB-JP (Monograph) の件数（登録件数、アクセス件数）が多くないことが判明した。これに対応するため、CiNii Books 上でのリンク表示などの改善案を検討している。
 - ② 国内の電子ブックに適したメタデータ項目の検討および流通の改善に資するため、OpenBD との連携が必要と判断した。これに向け、12 月 14 日に国内での電子ブックのメタデータの連携状況などについて OpenBD との意見交換を行った。今後も継続して同様の意見交換を行うこととした。
- (3) NDL 等関係機関との調整
 - ・ 書誌調整連絡会議（2021/3/3 開催）出席予定

3. 2021 年度以降の課題

- (1) 「書誌データ作成・提供計画（仮）」の確定と参加館への説明等
- (2) メタデータ流通の高度化検討（電子ブック）
 - ① CiNii Books 上でのリンク表示などの改善
 - ② OpenBD を通じた出版社との調整
- (3) NACSIS-CAT における目録規則、メタデータフォーマットの変更
 - ① 参加館への案の提示、合意形成

以上

1. 活動概要

- (1) 統合的発見環境のビジョンの検討
- (2) 統合的発見環境に関するシステムの調査検討
- (3) NACSIS-ILLの軽量化・合理化についての検討
- (4) 国内電子書籍のメタデータ統合についての検討

2. 活動状況

以下の活動を実施した。

- (1) 「統合的発見環境」について、整理検討を行い、年度内に以下の策定を予定している。
 - ・「統合的発見環境実現のための課題整理（仮）」
- (2) NACSIS-ILLの軽量化・合理化について、整理検討を行い、以下を策定した。
 - ・「図書館間のリソース共有のためのILL課題整理」
 - ・「ILLの料金決済モデルの整理」
- (3) 国内電子書籍のメタデータのデータ流通に向けた検討を行った。また、メタデータ流通の高度化検討班とともに12月14日に国内での電子ブックのメタデータ流通の連携可能性について、OpenBDとの意見交換を行った。今後も継続して同様の意見交換を行うこととした。
- (4) メタデータ流通の高度化検討班で策定した「書誌データ作成・提供計画（仮）」において、統合的発見環境及び次期NACSIS-ILLの部分について整理検討を行った。

3. 2021年度以降の課題

- (1) 中央システムとローカルシステムを含めた統合的発見環境の具体化と提案
- (2) NACSIS-ILLの軽量化・合理化の提案と合意形成

以上

2020 年度図書館システム整備班（モデル A）活動報告

1. 2020 年度活動計画

- (1) 出版社等に由来する流通用メタデータを活用した，図書館システムの業務モデル再構築
 - ① 書店が提供する Knowledge Worker や PLATON といった発注システムが提供する流通用メタデータを基礎とした連携ワークフローの検討
 - ② OpenBD 等で提供される流通用メタデータを用いた発注ワークフローの検討
- (2) JUSTICE 提案における，新たな「ライセンスメタデータ項目」による，A 班構成員の所属機関における実運用の検証
- (3) 中央システムと同一の Network Zone（以下，NZ）を構成していない Alma に対して「ライセンスメタデータ」を配信する，NII によって構築されるシステムを通じた実運用の検証

2. 活動概要

「活動計画」を踏まえ，以下について取り組んだ。

- (1) 流通用メタデータの活用を前提とした「紙」の図書・雑誌の扱いに関する業務モデル再構築→活動計画(1)
- (2) 図書館システムと中央システムの電子リソース共有検証→活動計画(2),(3)

加えて，図書館システム整備の必要性から，以下の検証について付加的事項として取り組んだ。

- (3) Alma の User Interface（以下，UI）で利用できる「外部検索機能」における OpenBD や NDL Search の設定可能性
- (4) Alma での国内電子コンテンツの扱いに関するワークフローの検証
- (5) Alma の共同運用を前提とした Library Zone 【※】（以下，LZ）の利用可能性の検証
- (6) Alma での利用者サービス機能の検証

【※】 Library Zone

Alma の Institution Zone（以下，IZ）下に設ける環境のこと。共同運用時に下記のようない点があるとされる

- ① 機関が個別に IZ を設定する手間を省くことができる
- ② IZ を複数契約するよりも安価である可能性がある

3. 活動詳細

- (1) 流通用メタデータの活用を前提とした「紙」の図書・雑誌の扱いに関する業務モデル再構築
 - ・ Knowledge Worker および PLATON で作成された発注データを Alma に取り込む

という流通システムを出発点とする、流通用メタデータを活用したワークフローの構築が可能

- ・ OpenBD における流通用メタデータを利用した図書の発注データの作成は、OpenBD および Alma の API を利用することで実現可能。見計らいなどでの一括発注などで、OpenBD のメタデータを出発点とするワークフローの構築が可能
- ・ 同様に API を用いて既存の書誌データに「あらすじ」や「目次データ」などを追記するといったワークフローも実現可能

(2) 図書館システムと中央システムの電子リソース共有検証

- ・ 昨年度に引き続き、中央システム整備（電子リソース対応）班により、中央システムに登録された A 班構成員の所属機関が購読する JUSTICE 提案のメタデータについて、検証を実施（なお、今回は、他の活動にリソースを充てるため、「図書館システムと中央システムが同一の Network Zone（以下、NZ）に所属する Alma（IZ）の場合」での検証は実施せず、「図書館システムと中央システムが同一の NZ を構成せず、それぞれ独立した Alma の場合」でのみ実施）
- ・ 佛教大学の図書館システム（Alma）との間でライセンスデータ・ポートフォリオデータ（タイトルリスト）の共有について、API を用いた外部アプリによる連携を検証
- ・ 中央システムのライセンスデータで設定される項目と同一の項目を有する「空」のライセンスデータを図書館システムにあらかじめ作成することでデータの連携が可能
- ・ ライセンスデータの連携にあたっては中央システムのライセンスデータの ID、ポートフォリオデータの連携にあたっては、それが属するコレクション ID とサービス ID が必要となることから、実運用にあたってはこれらの ID を公開することが求められる

(3) Alma の UI で利用できる「外部検索機能」における OpenBD や NDL Search の設定可能性

- ・ Alma の「外部検索機能」では、検索対象のデータベースが z39.50 もしくは SRU に対応したうえで、MARC21 やダブリンコア等の国際標準フォーマットで返戻できることが必要とされることから、NDL Search や OpenBD については、対応できない
- ・ ただし NACSIS-CAT は既に設定され、利用できる状況

(4) Alma での国内電子コンテンツの扱いに関するワークフローの検証

- ・ Kinoden など機関ごとのパラメータが必要とされるデータベースについて、Alma のグローバルなナレッジベース（コレクション）で、パラメータが設定できないため、アクセスが正しく行えないといった問題があり、発注から提供に至るワークフ

ローが機能しない場合があった

- ・ 流通メタデータの活用に関しては、Knowledge Worker における Maruzen eBook Library のメタデータを起点としての発注ワークフローの構築について検証中
- ・ Alma における国内の電子コンテンツに関する書誌のメタデータはいずれも著しく貧弱であるが、「紙」の書誌データに対し、電子コンテンツのポートフォリオと呼ばれる Community Zone のアクセス情報を結びつけることで、一定の補完は可能
- ・ 電子ブックについては、いわゆる資料番号に該当するものをデフォルトでは設定することができないため、資産として扱う場合には一定の工夫が必要

(5) Library Zone の活用検討

- ・ NII が管理する IZ 下に LZ を作成し、IZ との機能の違いを比較
- ・ IZ にはあるが、LZ にはない機能について、業務上必須と判断されたものについて、運用やシステム面での対応が可能か検討（対応中）
- ・ 2021 月 1 月に運用可能性について最終判断

(6) Alma での利用者関連機能の検証

- ・ IZ と PrimoVE (Alma の検索インターフェイス) の連携検証として、下記について実施（対応中）
 - 360 リンクで OPAC に取り込んだ書誌との比較
 - 利用者サービスでの利用可能性、利用者に周知している契約条件（サイト区分とリモートアクセス可否）を雑誌やナレッジ単位で設定できるか
 - DOI や PMID で検索できるのか

4. 2021 年度以降の課題

- (1) 利用者向けに公開されたライセンス項目に対する利用者の意見収集及び利用動向の調査
- (2) ライセンスデータに対する API 連携を踏まえた更新・適用ワークフローの確定
- (3) API を通じてライセンスデータを配布する中間システム（ゲートウェイ）の構築方法に関する検討
- (4) タイトルリストに対する API 連携あるいはダウンロード連携を踏まえた更新・適用ワークフローの確定
- (5) API を通じてタイトルリストを配布する中間システム（ゲートウェイ）の構築方法に関する検討
- (6) LZ 運用方法策定（※2021 月 1 月に運用可能と判断した場合）
- (7) 2020 年度の IZ と PrimoVE の連携検証結果をふまえ、IZ、CZ に備えるデータ要件について調整
- (8) 国内 ILS から Alma 移行に際する課題の抽出（NII 図書室システム移行に関する検

証)

- ・ 初期設定 (migration form 等) 支援の要否
- ・ 入館ゲート等既存機器との接続
- ・ NACSIS-CAT/ILL の利用可能性 (紙資料管理を Alma で行う場合)

以上

2020 年度図書館システム整備班（モデル B）活動報告

1. 2020 年度活動計画

- (1) タイトルリストについて不十分な情報や不足している項目を取りまとめ、タイトルリストの項目整備を JUSTICE 事務局経由で出版社に依頼
- (2) タイトルリストに問題点が多い、いくつかの出版社のタイトルリストを調査し、課題を洗い出す。
- (3) JUSTICE 参加館が必要としており、2019 年度の実証実験に含まれなかったライセンス項目について、中央システムの登録項目を調整
- (4) 2021 年契約分の JUSTICE 提案書で追加された、ILL の詳細項目について、中央システムのライセンス情報との対応関係を整理

2. 参加機関 ※昨年度から継続

- ・ 千葉大学
- ・ 東京大学
- ・ 大阪大学
- ・ 鹿児島大学
- ・ はこだて未来大学
- ・ 明治大学
- ・ 安田女子大学

3. 活動概要

以下について取り組んだ。

- (1) タイトルリスト設定手順書の作成 →活動計画(2)
- (2) ライセンス情報の項目調整 →活動計画(3)(4)
- (3) ライセンス情報の検証

4. 活動詳細

(1) タイトルリスト設定手順書の作成

- ① B 班に自機関契約分に対して、2019 年度に中央システム整備（電子リソース対応）班により、中央システムに登録されたタイトルリストについて、業務への利用検討を依頼しその結果を集約（2019 年度の活動）
- ② 一律にデータ化したタイトルリストでは、正確性に問題があるため、業務への利用が不可であり、パッケージごとの個別対応の必要性を確認
- ③ JUSTICE 提案の一部パッケージについて、正確なタイトルリストを生成するための手順書（ワークフローのテンプレート）を作成（対応中）

(2) ライセンス情報の項目調整（電子リソース対応班と共同）

- ① B 班に自機関契約分に対して、2019 年度に Network Zone へ登録したライセンス項目について、運用実態との比較を依頼しその結果を集約（2019 年度の活動）
- ② 上記を踏まえ、「DDP の有無」、「サイトの定義」を追加、また、「ILL の可否」「授業用教材への利用可否」の粒度を JUSTICE 提案書に合わせる形で調整

(3) ライセンス情報の検証

- ① 自機関契約分に対して、中央システム整備（電子リソース対応）班により、中央システムに登録されたライセンス項目について、運用実態との比較を実施（対応中）
- ② 比較の結果判明した、不足項目や項目名の不備をフィードバック（予定）

5. 2021 年度以降の課題

(1) タイトルリストの項目整備 → 活動計画(1)

タイトルリスト設定手順書をもとに、出版社提供のタイトルリストで、項目整備が必要なパッケージを洗い出し、JUSTICE 事務局経由で出版社へタイトルリストの項目整備を依頼

(2) タイトルリスト設定手順書の拡充

2020 年度作成対象外とした JUSTICE 提案パッケージに対し、手順書を作成する

(3) ライセンス情報の最適化

2020 年度の活動で得たフィードバックをライセンス情報に反映させる。

(4) 電子リソースの共有に向けての機能開発

タイトルリスト設定手順書、ライセンス情報を広く公開、共有するためのサイトの開発（既存サイトへの機能追加を検討中）

以上

2020 年度 ERDB-JP 運用作業班活動報告

1. ERDB-JP と参加機関統合システムとの連携

- Salesforce を用いて、ERDB-JP を含めた複数サービスの参加機関統合システムを構築し、2020 年 9 月 15 日に公開した。
- ERDB-JP で使用している Drupal のバージョンを 7 から 8 へアップグレードした。
- ERDB-JP と参加機関統合システムとのシングルサインオン連携を今年度中に実施予定である。

2. ERDB-JP 統計（2020 年 12 月末現在）

- ・ ユーザ数：
 - パートナーA : 83
 - パートナーB : 37
- ・ コンテンツ数 : 21,610 タイトル

3. ERDB-JP は担当制で問い合わせ対応などを行っている。

以上

2020 年度 CAT2020 運用移行支援班活動報告

CAT2020 運用移行支援として、以下の活動を行った。

1. 移行時期の延期に関する検討

2020 年 3 月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、各大学図書館も 4 月以降サービスの縮小、在宅勤務の拡大が相次いだ。当初の移行時期は 6 月 1 日であったが、業務への影響を考慮し「これからの学術システム構築検討委員会」委員からも意見を聴取の上、4 月 30 日付で「2020 年以降の目録所在情報システムの適用開始日延期について（通知）」を発出するに至った。新たな移行日は令和 2 年 8 月 3 日（月）であることが通知され、予定通り移行が実施された。

2. イベント等

■LIMEDIO オンラインセミナー

- ・日時：2020 年 10 月 13 日，15 日，16 日（内容は同じ）
- ・場所：オンライン
- ・プログラム：「CAT2020 開始，そして 2022 年へ：目録所在情報サービス再構築の具体的な取組み」
- 講師：村上遥

3. 今年度の検討内容

- 目録情報の基準及びコーディングマニュアルの改訂
- CAT2020 アナウンスページの改訂案の検討
- 重複書誌自動統合の仕様検討
- 運用開始後のトラブルについての情報共有
- 品質管理室での調整判断について
- コーディングマニュアル旧版の公開継続について
- 書誌修正に関するルールについて
- z39.50 への対応について

4. 今後のスケジュール

- ・運用上の懸案に関する検討

なお、CAT2020 への移行が終了したことに伴い、本支援班の活動は今年度で終了する。

以上